

人間地半線



8月いっぱい続くヒマワリの祭り。村内3カ所、約4万5千平方メートルに30万本近いヒマワリが植えられている山梨県明野村で

「日照日本」と輝く生徒の目 山梨明野村

強烈な日差しを受けたヒマワリが、黄色に輝いている。山梨県明野村。

ここは「日照時間日本一」が自慢だ。そこにたどりついたのは、村立明野中学校の生徒たちの気象観測だった。

昔から晴れの日が多い日、装置の記録を下さ取

といわれていた土地。「調べれば郷土学習になると、理科の先生だつた」野道勇さん(69)の提案で、学校の向かいに役場が観測装置を設けてくれた。22年前のことだ。12人の生徒が交代で毎

った。集計したところ、この年の日照時間は合計で2939・5時間。国立天文台が編集する理科年表で調べると、掲載されている全国80カ所のごよりも長かった。上位にある静岡県や高知県内でも2200時間前後だった。

「明野は日本一か、と生徒たちの目が輝きまし

た」と野さん。「南アルプスや八ヶ岳など高い山に囲まれている上、風の通り道になっているから雲が発生しにくい」。集計は続き、21年連続で、理科年表の数字を上回っている。

生徒たちは日照時間のほかに気温、降水量、風速

などを調べ、毎年報告書を出している。気象業務法でいう「届出観測所」に認められているためデータが公表できる。村内にある県フラワーセンターでは、どんな花をいつ植えるか決めるのに役立っている。ブドウ栽培を始める農家がデータを参考にきたこともあった。

ヒマワリは明るい村のイメージにぴったり。村は遊休農地に植え続け、92年から毎年夏、「サンフラワーフェス」を開き、全国から17万人近くが訪れる。「子供たちの努力の成果が、村の財産になりました」と大柴邦昭村長は胸を張っている。

(今井 隆三郎)

